

「男山地域まちづくり連携協定」締結式



写真1. 協定締結者（左から、山田知事、大西支社長、楠見学長、堀口市長）

1. はじめに

これまで、男山団地・男山地域を対象に、本地域の課題や今後の展開について、関係主体が30回以上の会議を重ねてきた。具体的には、KSPDと八幡市の間で、平成24年度より「勉強会」を開始し、同年度より京都府（自治振興課）の協力・支援のもと「戦略会議」を実施し、地域住民や組織との関係づくり、情報共有、意見交換を行ってきた。平成25年度からはこのテーブルにUR都市機構が加わり、「連携協議会」として男山地域の今後取り組むべき課題や方向性について議論を重ね、協力関係の構築を図ってきた。これらの経緯の中で、平成25年10月25日には、京都府知事の立会いのもと、八幡市・UR都市機構・関西大学が男山団地を含む男山地域の今後のまちづくりに関して連携・協力して取り組みを進めていくため、「男山地域まちづくり連携協定」を締結し、研究の実践的な展開、検証を可能とする基盤形成が図られた。

連携・協力事項は、(1) 次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくりの導

入・確立、(2) 多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立、(3) 地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立 (4) 住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保、である。本リーフレットは、この男山地域まちづくり連携協定の締結式当日の八幡市・UR都市機構・関西大学・京都府の各締結者による挨拶の記録である。

【男山まちづくり連携協定締結式 次第】

- 1) 開会、2) 出席者紹介、3) 趣旨説明、
- 4) 協定書署名、
- 5) 締結者挨拶（堀口市長・楠見学長・大西支社長・山田知事）
- 6) 記念撮影、7) 閉会、
- 8) 取り組み紹介（関西大学 江川直樹教授）、
- 9) 質疑応答

2. 三者協定締結の趣旨説明（八幡市都市計画課まちづくり推進部、藤田孝志部長）

男山地域は、日本住宅公団施行の土地区画整理事業により整備され、昭和47年の第1期入居以来、40年以上が経過し、今日まで緑豊かな住宅地として成熟して参りました。現在、少子高齢化が進む中、地域、コミュニティの希薄化などの課題も浮かび上がっております。そこで、男山団地の所有・管理者である独立行政法人都市再生機構、および八幡市は、関西大学による「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究」における男山地域・男山団地の再生に関する提案をいただきながら、男山地域のまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。また、今回の協定締結につきましては、京都府「まちの課題・チーム型解決事業（まちの仕事人）」の支援をいただき、実現したものであることから、京都府の立ち合いをいただき、関係する三者が「住みたい、住みつけたい、男山」を目指して相互に連携、協力することで合意し、男山地域にまちづくり連携協定を締結するものでございます。以上が、今回の協定締結の趣旨でございます。



写真2. 締結式会場の様子

3. 堀口文昭氏（八幡市長）

本日、男山地域まちづくり協定を締結させていただくことになりまし



た。ひとことご挨拶申し上げます。また、本協定の立会人をお引き受けいただきました山田京都府知事におかれましては、ご多用の中ご臨席賜りまして誠にありがとうございます。このように本協定締結の実現に結びつけることができましたのは、ご臨席のみなさまをはじめ、京都府、UR都市機構、関西大学の関係者の皆様方のご尽力のお陰でございます。心から敬意と感謝を申し上げます。

ご案内の通り、本市におきましても、かつて人口急増が、昭和40～50年代後半にかけてあったわけですが、その原動力というのは男山地域でございます。しかし、現時点では人口の減少、集合住宅など地域での高齢化等が進んでいるわけでございます。

男山地域・男山団地と申しますのは、八幡市民にとりましては、八幡町から八幡市になったまさに原動力でございます。非常に忘れられない市としての一つの財産であると思っております。ところが、その市としての財産（宝）がそうでありつづけるためには、残念ながら私共の知恵では十分取り組めないで、URのみなさまや、特に関西大学のお知恵を拝借しながら、また京都府のご協力を得て、八幡市の男山地域における活性化に向けた新しい取り組みを行って参りたいと考えているところでございます。

そのためには、当然、市も汗を流す中で、いろんな形で取り組んで参りたいと思っております。また、本協定では京都府より大きなサポートをいただきまして、市町村の課題解決に協力していただく街の課題チーム解決事業を活用させていただきましたところ、男山地域のまちづくりを多様な形で対応できるプラットフォームづくりについて提案、また牽引していただきましたことに対しまして心より感謝申し上げます。

今日まで、関西大学、UR都市機構、

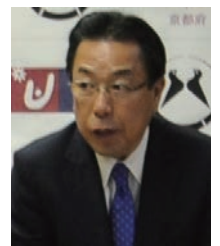
そして本市が京都府様のサポートをいただき、男山地域に対して共助を重ねまして、同じ思いを育て、共有できたことが、関西では初めてのこのような協定の締結、子育てをテーマにしたもので言うと全国でも初めてではないかと思っております。協定締結に結びついたのではないかとと思っております。これからは、本日提携いたしましたこのプラットフォームに、住民の皆様にも積極的な参加をいただき、将来、男山地域をさらにいきいきとした街とするために、一層の努力をする決意でございます。この決意を改めて表明させていただきまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。



写真3. 協定書への調印の様子

4. 楠見晴重氏（関西大学 学長）

本日、八幡市、そしてUR都市機構、我々関西大学が協定を結ぶことができましたのは、我々にとっても本当にありがたいことだと思っております。また、大変お忙しい中、京都府の山田知事には立ち合いをお引き受けいただきまして感謝申し上げます。



今回の連携協定締結についてでございますが、関西大学の先端科学技術推進機構の中に、地域再生センターというものを設けております。その地域再生センターの一つの研究プロジェクトとして、「集合住宅団地の再編（再生・更新）手法に関す

る技術開発研究プロジェクト」が中心となってこの男山団地の再生に関する研究プロジェクトを行っていきたくて考えております。

この研究プロジェクトでございますが、文部科学省の競争的研究資金であります私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されております研究プロジェクトであります。このプロジェクトは、5年間、文部科学省より資金的な援助を受けるものでありますが、関西大学としましてはこのプロジェクト以外にも地域再生に関する研究プロジェクトを行っております。今回は、男山団地を実際の研究フィールドとして提供いただきまして、今までにないような団地再生モデルを構築していきたいと思っております。すなわち、この団地の中に、関西大学の研究所（地域再生センター）のブランチを設けて、そこには本学の教員、本学の学生、さらには地域住民の方々が利用して、それぞれの課題について共に解決していくというモデルをつくりながら、この団地を再生していきたいと考えております。

また、この成果は、他の対象でも十分活用できるような成果が得られるのではないかとと思ひまして、それを国内において広く発信していきたいと考えております。

本学におきましても、学生がここにに関わり続けていくということが、教育効果としても非常に期待しているところでございます。すなわち、このような場を提供していただき、学生が自ら学び、自ら行動していくという、本学の教育理念の一つであります「学問と実際の調和」とまさに合致したものでございます。

今回はこのような場を設けていただき、ここで発表させていただくということで、本学にとっても教育のプレゼンスを更に高めていきたいと考えております。以上、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。どうも

ありがとうございました。



写真 4. 協定締結者

5. 大西誠氏（独立行政法人都市再生機構西日本支社長）

ただいまご紹介をいただきました大西でございます。男山地域まちづくり連携協定締結にあたり、ひとことご挨拶を申し上げさせていただきます。

まず、本日、ここに連携協定締結の日を迎えることができましたことについて、京都府、八幡市、関西大学の関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。

さて、男山地域は、私共 UR 都市機構の前身であります日本住宅公団が、昭和 44 年から開発を始めた地域でありまして、更に、男山団地は昭和 47 年から入居を開始した団地です。UR 賃貸住宅のストックは、西日本支社管内で約 21 万戸ございます。今回のような公共団体と大学と UR の三者の連携によるまちづくりへの取り組みは、西日本支社としては初めての経験です。男山団地は、建物は古くなりつつありますが、ゆとりのある空間や豊かな緑など団地ならではの魅力を持っております。この団地を今後とも地域の貴重な財産として活用するために、時代の変化に応じて、守るべきものは守りながら、変えるべきものは変えながら、団地の再生・再編を図っていくことが必要だという様に考えてございます。



私共は団地の再生・再編を推進するにあたりまして、高齢者や子育て世代を含む様々な人々が安心して暮らせるまちづくりを目指して、医療と介護や福祉との連携によって、団地を地域の医療と福祉の拠点として整備していきたいと考えております。特に、住宅を中心に医療、介護、生活支援、予防の連携を図る地域包括ケアシステムを、地方公共団体や民間事業者さんと共につくり、いつまでも住み続けることができる団地と地域にすること、すなわち「Aging in 団地、Aging in 男山」を目指していきたいと考えております。

また、子育て世代のためにも、八幡市の積極的な子育て施策との連携のもと、切れ目のない子育て環境と子育て世帯に適した生活環境を提供していきたいと考えています。

今回の八幡市と関西大学と当機構との三者によるまちづくり連携協定の締結を契機としまして、八幡市の高齢者施策、子育て施策との一層の連携を進め、繰り返しになりますが、男山団地を地域の医療と福祉の拠点として整備する取組みを推進してまいります。

また、関西大学には、団地再生への様々なアイデアをいただいておりますが、今後、団地リノベーションの新たなデザインや住民参加による新たな運営方法のアイデアなど、私共の従来の発想にはない提案を期待してございます。この三者連携の取り組みにより、私共は男山を新たな団地再生のモデルとすべき取り組んで参る所存でございます。以上をもちまして、私からのご挨拶とさせていただきます。今日は大変ありがとうございました。

6. 山田啓二氏（京都府知事）

今日こうして、八幡市、関西大学、独立行政法人都市再生機構西日本支



社の三者によるこれからの男山の再編・再生に係る協定が結れたことに対して、関係する皆様に改めて感謝を申し上げたいと思います。

京都も様々な課題を北から南まで抱えておまして、北のほうではやはり過疎化・高齢化の問題が非常に大きな問題となっております。それに対しまして、南の方では都市の再生ということが、非常に大きな課題となっております。今年、東京オリンピックが開催されることが決まったわけですが、日本での東京オリンピックは昭和39年に開催されましたが、そこから経済成長を経て、一気に飛躍を遂げたわけでございます。しかし、その時に建てられたものが、今まさにアセットの時代を迎えております。しかし、時代は大きく変わらして、当時は0～14歳の子供が2000万人の後半くらいだったと思いますが、今は1600万人と減って、逆に高齢者の数は大変な数になっているということで、全く今までとは違う新しい概念で、新しい思いで地域を再生していかななくてはならないということになっていると思います。そして、その象徴がこの男山団地ではないかと思えます。男山団地は、八幡市の人口の1/6くらいを占めているわけでありまして、男山地域でいうと、1/4くらいになりますので、まさに八幡市にとってかけがえのない地域であると思えます。その地域ができてから40数年を経ているということは、地域にとりましても大変な課題であると思えます。しかし、この地域は非常に広大かつ大変な人口を抱

えておりますので、一つの市でこの問題を解決していくことは非常に難しい、しかも社会環境の変化を考えていけば、新しいコンセプトが要る、そして、その団地を管理されているのがURということで、この三者が力を合わせていくということによって、本当に今までとは違った体制というよりは、新しい地域をつくっていくという考え方をもとにできるんじゃないか、そしてこれはたぶん、これから大きな問題となってくる高度成長期における都市の再生・再編というものの大変なモデルになるのではないかと考えております。

京都府も、これは八幡市だけの問題ではなくて、京都府にとりましても大変な問題だということで、「まちの仕事人」という言い方をしておりますけれども自治振興課の職員を派遣して、大きなプロジェクトとして取り組んで参ります。そうした中で、今回いい形で新しいモデルが出来上がる基盤ができたということでありまして、大変うれしく思っている次第でありますし、これを成功させなければいけないということで、我々京都府も全力を持って支援をしていきたいと思っているところであります。是非とも、これから、URのもっている都市再生の知恵、そして関西大学の持っているこれからの地域コミュニティから地域の再生、そして具体的に地域づくりにあたっている八幡市、この三者のコラボレーションのもとに、男山地域の再生・再編というものが大変な成果を上げることを心から願い、改めて京都府もこのためにしっかりと支えて

いくことをお誓い申し上げて、私の立ち会いの挨拶とさせていただきますと思います。どうもありがとうございました。

7. 取り組み紹介

本締結式終了後、江川直樹教授が、「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究」のプロジェクトの概要と、協定締結を機に最初の実践的取組として予定している、コミュニティ拠点『だんだんテラス』の開設等について説明を行った。



写真5. 江川直樹教授によるプロジェクトの取り組み紹介

8. 協定締結後の質疑応答

協定締結式に出席した記者より、質疑応答が行われた。記者からは、これまでのUR都市機構の連携型の取り組みと比べて新しい点や、既存の住戸や店舗、集会所などのストックをどのように活用していくのかについて質問が出された。

『「男山地域まちづくり連携協定」締結式』

八幡市、関西大学、UR都市機構、京都府
関西大学 戦略基盤・団地再編プロジェクト
(関西大学先端科学技術推進機構 地域再生センター)
関西大学 社会連携部 地域連携センター

記録・作成：片岡 由香 (関西大学 先端科学技術推進機構)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究（平成23年度～平成27年度）」によって作成された。

発行：2014年3月

関西大学
先端科学技術推進機構 地域再生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
先端科学技術推進機構 4F 団地再編プロジェクト室
Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)
URL : <http://ksdp.jimdo.com/>